

高等学校 地理歴史科（歴史総合） 学習指導案

指導者 鶴田 輝樹

日 時	令和7年12月16日（火） 第6限 14:25～15:15
場 所	I－IHR 教室
学年・組	高等学校I年1組 42人
単 元	現代と私たち 現代的な諸課題の形成と展望
目 標	<ol style="list-style-type: none">1. 万国博覧会の歴史的背景及び、特に20世紀に開催された万博が開催当時の社会状況と密接に関連していることを理解する。（知識・技能）2. グローバル化にともない生活や社会が変化したことを示す資料を取り上げて、情報を読みとったりまとめたりすることができる。（思考力・判断力・表現力等）3. 現代社会の諸課題に対し、みずから歴史的な見方や考え方を活用して分析し、課題を明らかにするとともに、将来を展望することができる。（学びに向かう力・人間性等）

指導計画（全2時間）

- 第一時 ICTを活用しながら、万国博覧会の歴史的背景について概観する。 1時間
- 第二時 20世紀に開催された万博が、開催当時の社会状況と密接に関連していることを、協働的な学びを通してまとめるとともに、大阪・関西万博から現代社会の諸課題について考える。 1時間（本時 2/3）
- 第三時 自ら考えた課題を、新聞(社説)の形式でまとめ、クラス全体で共有する。 1時間

授業について

2022年度から高等学校で必修化された新科目「歴史総合」は、現行の学習指導要領において、「現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する」こと、「歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する」こと、「近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う」ことが目標として示されている。

原田(2019)は、私見として、「歴史総合」の授業を創る上で、持続可能な社会の視点が重要であり、そのような社会の実現には、ユニバーサリティとパートナーシップが不可欠であるとしている。そこで本授業では、各国が国を超えて、相互に共同・提携し取り組んできた「万国博覧会」を題材として、現代的な諸課題の形成過程を明らかにしたうえで、その展望について考察する。

導入では、前時の復習としてICTを活用しながら、万博の歴史的背景やその意義等について確認する。展開①では、20世紀を中心に開催された万博のテーマ(その時代において新規性のある科学技術の発展や、国際的に共有された課題などとの関わりが深く、その時期における国際的関心の所在を反映している)に着目し、当時の社会との関わりについて、協働的にまとめる。展開②では、2025年に開催された大阪・関西万博に関する新聞記事(社説)を資料として、現代社会の諸課題について考察する。指導上の留意点として、社説をただ読ませるのではなく、その構造・構成についても説明する。終結では、30年後の万博テーマを考えることで、現代的な諸課題の展望について構想する。また、ICT(新聞制作アプリ「ことまど」)を活用して生徒同士の意見を共有させることで、生徒が自発的に現代的諸課題への認識を深めることを期待する。

現代的な諸課題の解決を導き出すことは限りなく難しいことではあるが、解決のために歴史を学び、探究し、生徒自身が問い続けることができる生徒の育成をめざしている。なお、本授業は、第Ⅲ部「グローバル化と私たち」の導入授業としてだけでなく、歴史総合全体のまとめとしての位置付けも想定している。

題 目 現代的な諸課題を展望する歴史総合の授業実践－「万国博覧会」を事例として－

本時の目標

1. 万博の歴史的背景及び歴史的事象との関わりについて理解する。(知識・技能)
2. 社説の構造・構成原理を理解した上で、自分の考えについてまとめる。(思考・判断・表現)
3. 万博について分析する際、主体的・協働的に取り組むとともに、授業課題について積極的に自分の考えを表現することができる。(学びに向かう力・人間性等)

本時の評価規準（観点／方法）

1. 社説の構造及びその構成についてまとめることができる。(技能／ワークシート)
2. 社説の構造・構成原理を用いて、実際の社説の記事内容を整理することができる。(思考・判断・表現／ワークシート)
3. 今後予想される社会的諸課題について自分なりの考えを表現することができる。(主体的に学習に取り組む態度／ワークシート等)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
【導入】(10分) ○万国博覧会の歴史的背景について理解する。(前時の復習)	・スライド資料から、これまで学習した内容について確認する。	・日本と万博の出合いや現代とのつながりを示し、生徒の興味・関心を引き出す。
【展開①】(15分) ○20 世紀に開催された万博とその時代背景との関連について考察する。	・万博の「テーマ」に着目し、それが当時の社会のどのような課題を反映したものかについて仮説を立てる。 ・万博と開催当時の社会状況との関連性についてペアワークで理解を深める。	・ペアワークの準備段階として、個人単位で考察する時間を設ける。 ・教科書本文ページや資料集を用いて仮説を検証させ、内容をワークシートにまとめる。 ・万博開催地の地図を活用して、地理的な特徴についても考えさせる。
【展開②】(20分) ○2025年の大阪・関西万博から現代社会の諸課題について考察する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 30年後の万博のテーマについて考えてみよう。 </div> ・紙媒体で配付した大阪・関西万博に関する各新聞社の社説を読み比べる。 ・大阪・関西万博を通して現代社会の諸課題および今後の展望について考える。	・中国新聞の社説を例にして、社説の構造について解説する。 ・社説の構造を示したワークシートを活用して、生徒自身の考えをまとめさせる。
【終結】(5分) ○これまでの学習を踏まえ、30年後の地球社会について創造する。	・これまで学んだことを踏まえ、30 年後に開催される万博のテーマについて考える。	・新聞制作アプリ「ことまど」を活用して、万博に関する社説を書かせる。 ・完成したものは「ことまど」を通じてクラスの中で共有する。
【参考文献】 ・原田智仁、『高校社会「歴史総合」の授業を創る』，明治図書，2019。 ・稲葉茂勝/渡邊優、『万国博覧会－知られざる歴史と SDGs とのつながり－』，ミネルヴァ書房，2023 年。		

万博テーマ一覧

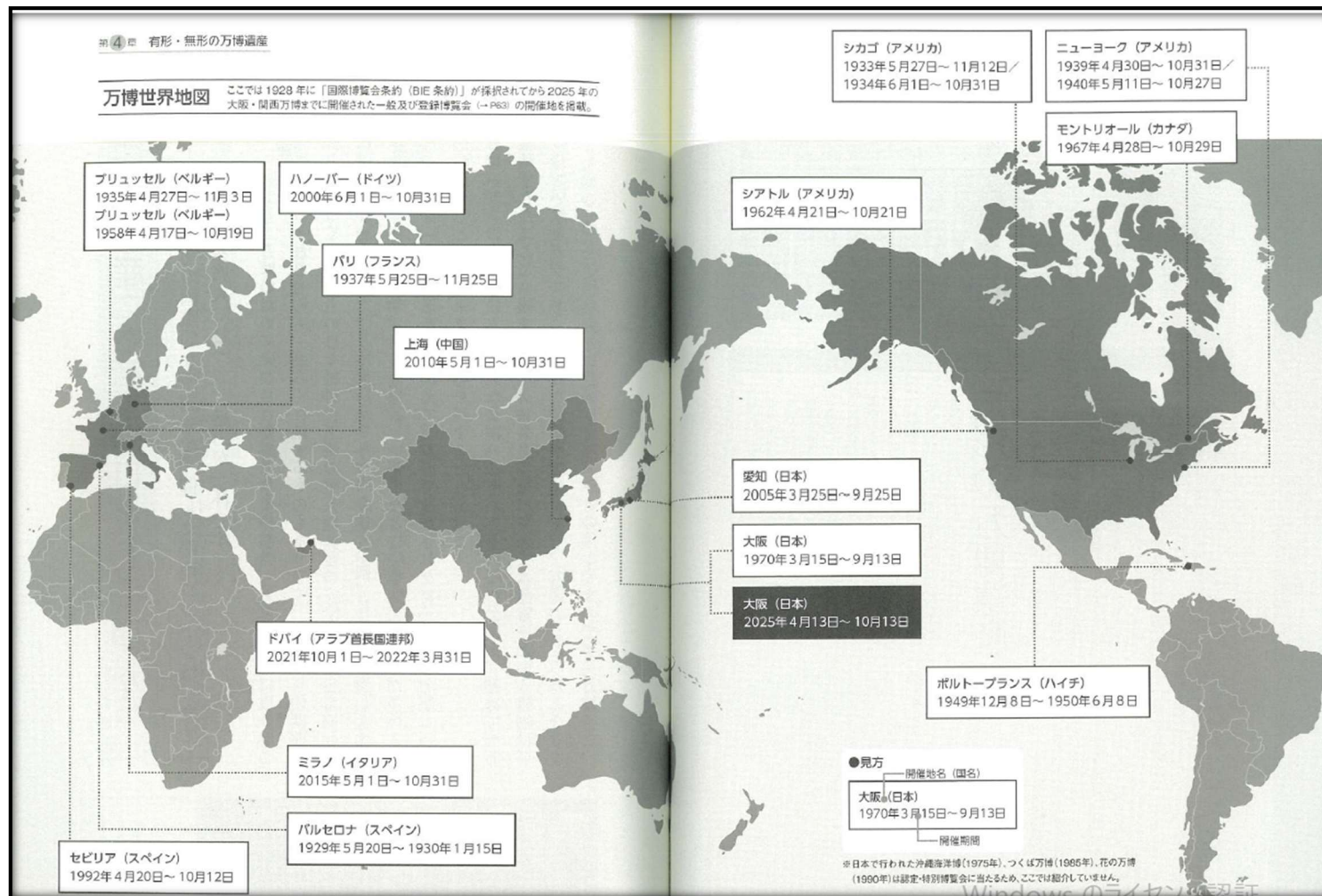
組 番 名前

○万博のテーマの背景には何があったか、開催時期の社会との関連について考えてみよう！

開催都市(国)	開催年	テーマ	特徴	社会との関連
シカゴ(アメリカ)	1933	進歩の世紀	電気調理器具など/新たな交通機関/満州館出品	
ブリュッセル(ベルギー)	1935	民族を通じての平和	ベルギー鉄道開通 100 周年を記念	
パリ(フランス)	1937	現代生活の中の芸術と技術	ゲルニカの展示/独・その敵対的展示	
ニューヨーク(アメリカ)	1939	明日の世界の建設と平和	飛行機による旅行・防衛/独不参加	
ポルトープランス(ハイチ)	1949	平和の祭典	発展途上国での開催	
ブリュッセル(ベルギー)	1958	科学文明とヒューマニズム	スプートニクの展示/国際機関招聘/植民地展示	
シアトル(アメリカ)	1962	宇宙時代の人類	「植民地展示」一掃/NASA の展示	
モントリオール(カナダ)	1967	人間とその世界	ソ連、開催地の権利返上/「一つのカナダ」強調	
大阪(日本)	1970	人類の進歩と調和	月の石展示	
セビリア(スペイン)	1992	発見の時代	統一ドイツの参加/バルト三国参加	
ハノーファー(ドイツ)	2000	人間・自然・技術	環境保護重視	
愛知(日本)	2005	自然の叡智	環境配慮、地球大交流、市民参加	
上海(中国)	2010	より良い都市、より良い生活	未来都市や環境問題への取り組み	
ミラノ(イタリア)	2015	地球を養う。命のためのエネルギー	飢餓や食料問題の提起	
ドバイ(アラブ首長国連邦)	2020	心を繋いで、未来を創る	最先端技術/サステナビリティ	
大阪(日本)	2025	いのち輝く未来社会のデザイン	先端技術の実証と SDGs の達成に向けた共創	
リヤド(サウジアラビア)	2030	変化の時代 共に先見性のある明日へ		

※1933～2025 年までの一般・登録博覧会を抜粋

万博世界地図

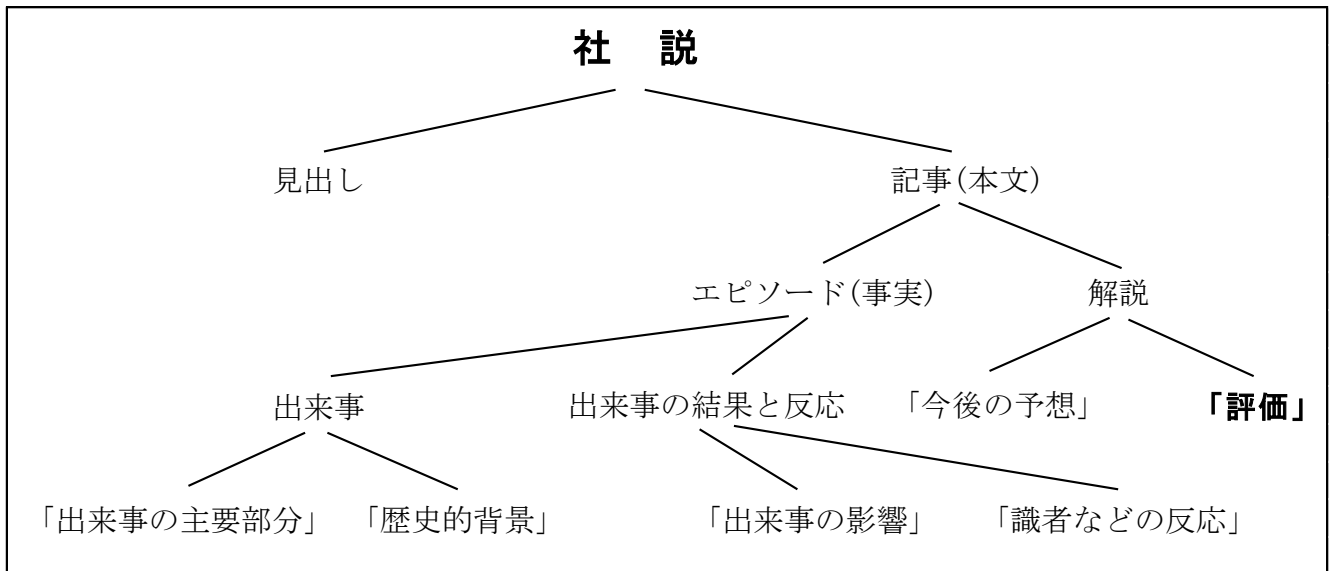


※1929～2025 年までの一般・登録博覧会

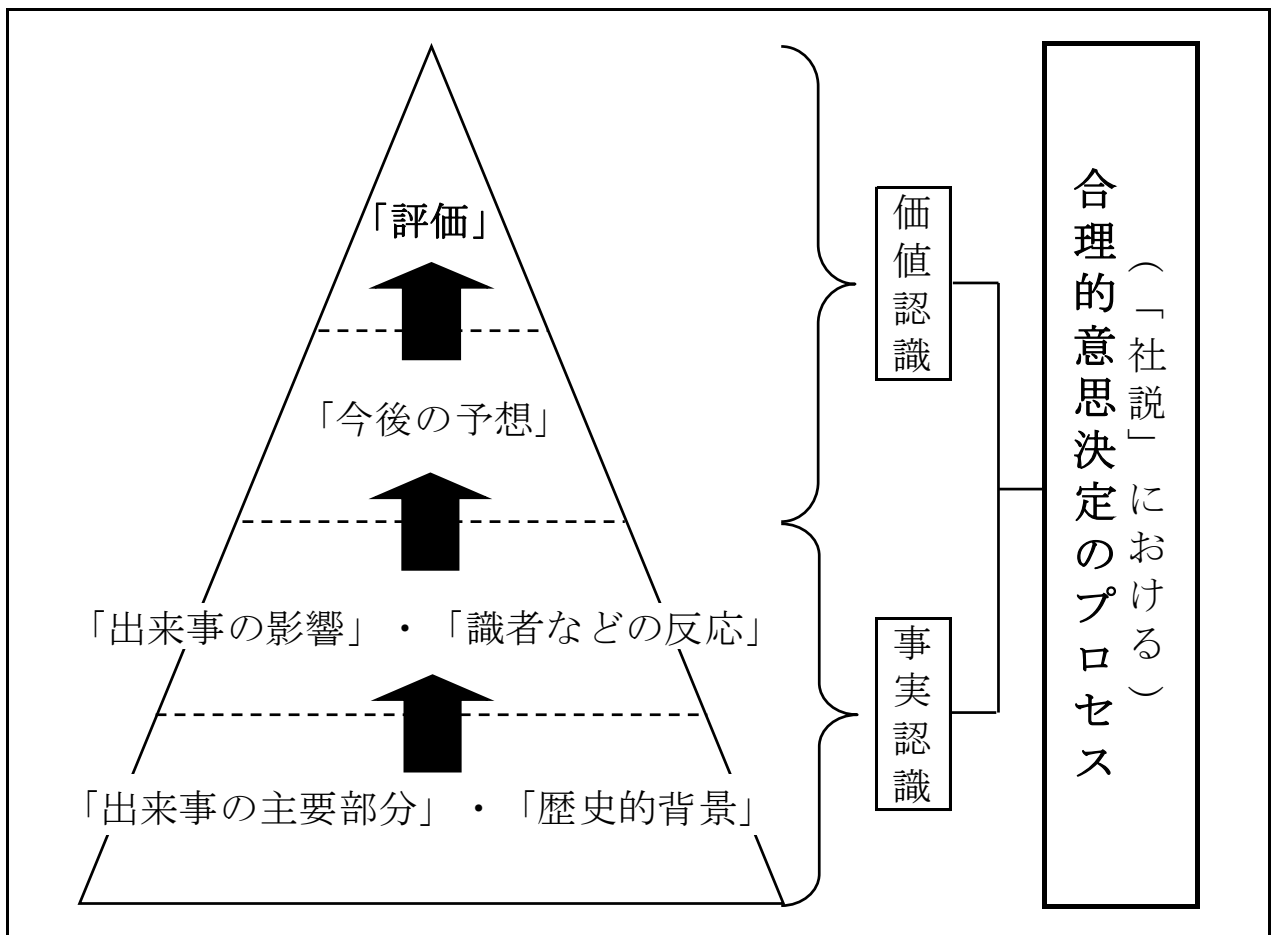
【上の地図からあなたが考えたことをまとめよう！】

「社説」の構造・構成について知ろう！

○「社説」とはどのような構造になっているだろう？



○「社説」はどのように構成されているだろう？



□社説を読んだ感想

万博開幕

半年間にわたって開かれた大阪・関西万博がきのう閉幕した。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、158カ国・地域が一賞に会した祭典に登場したのは2500万人を超える。多様なパビリオンでさまざまな出会いや体験があったことだろう。

ただ巨額の公費を投じるイベントには、開幕前から厳しい目が向けられてきた。万博が真に「未来社会のデザイン」を示せたのか、問われるのはこれからである。

赤字が危惧されていた運営費は、入場券収入や公式キャラクター「ミヤクミヤク」グッズの売り上げが貢献し、230億〜280億円の黒字を

社説

2025・10・14

成果と教訓生かせるか

に、戦火にある国も含め、一堂に会した意義は大きい。閉会式で石破茂首相は、大

来場者が増えたのは展示の充実が要因だろう。序盤は10万人に満たない日もあったが、交流サイト(SNS)などで評判となり、終盤は連日20万人を超えた。その分、大阪市の人工島・夢洲の会場は大混雑した。成果が今後表れるかどうか、注目したい。

大混雑したのは、万博で得られた成果や課題を今後どう生かすかだ。跡地活用も焦点となる。約350億円をかけて造られ、来場者に親しまれた大屋根リングは一部保存される。夢洲ではカジノを含む複合型リゾート施設(IR)の建設も本格化する。ギャンブル依存症などが心配される施設が未来社会のデザインとしてふさわしいのかは疑問だ。会場整備費などで無理を重ねてきた万博である。資材価格の高騰で建設費は当初想定

の倍にかさんだ。海外館を巡って下請け業者へ未払い問題も明らかになっているが、解決には至っていない。

石破首相は専門家などで構成する有識者会議を政府内に新設し、成果の継承に向けた検討を本格化する方針だ。負の教訓もしっかりと洗い出し、未来社会に役立ててほしい。

属根リングの理念を語りつつ「夢のような出会いの場になった」と述べた。実際、日本各地の自治体がいまだに「夢の薄かった国々と交流するきっかけになったようだ。石破首相の出身地であり日本最大の砂丘を有する鳥取県は、砂に縁のある国・地域と一砂一隅に結成し交流した。

8月には市街地と夢洲を結ぶ唯一の鉄道路線の地下鉄で、停電トラブルが発生。3万人が足止めされ、野外泊を強いられ、人々もいた。想定が不十分だったのではないかと、他地域への波及効果も乏しかったようだ。万博を機に鑑

かすかだ。跡地活用も焦点となる。約350億円をかけて造られ、来場者に親しまれた大屋根リングは一部保存される。夢洲ではカジノを含む複合型リゾート施設(IR)の建設も本格化する。ギャンブル依存症などが心配される施設が未来社会のデザインとしてふさわしいのかは疑問だ。会場整備費などで無理を重ねてきた万博である。資材価格の高騰で建設費は当初想定

大阪万博閉幕

多様にひとつを将来へ

大阪・関西万博が、約半年の会期を終えて閉幕した。大阪湾の人工島「夢洲」の一角を会場とし、防災面や暮らしへの対策が懸念された中で開催された。会場に訪れた人々の個性や個性が、会場に映り込んでいた。会場に訪れた人々の個性や個性が、会場に映り込んでいた。

ウクライナやガザでの戦い、貧困と飢餓、災害など、世界各地で平和と幸福が脅かされている。人種や国籍、性別と個性が、会場に映り込んでいた。会場に訪れた人々の個性や個性が、会場に映り込んでいた。

1160億円と見込んで運営費では、チケット販売が増え、二百数十億円の「黒字」になりそうだった。しかし、250億円の警備費は国費が充てられた。開幕前に2度増額された最大2350億円に膨らんだ会場建設費は、国と大阪府・市が経済界とともに3分の1ずつ負担した。

運営にあたった万博協会と万博を誘致した国、大阪府・市は、成功を強調するだろう。一方で、50年前の大阪万博を含め、もっぱら地域の開発と国の発展のために使われてきた万博を成熟した先進国が開く意味は何か。引き継ぎ問われていく。

注目されたのは「多様でありながら、ひとつ」というメッセージだった。目玉施設として整備された1周2.5kmの木造建築「大屋根リング」に込められた思いは、多様な個性がひとつになることだ。

会場の夢洲は大阪府・市が開発に失敗してきた歴史がある。府市はカジノを含むIR(統合型リゾート)とセトリで万博開催を掲げた。そうした経緯とともに、多額の公費投入への疑問が消えていないことを忘れてはならない。

□社説を読んだ感想

< 2025. 10. 14 >

主 張

大阪・関西万博が184日間の会期を終え、閉幕した。158カ国・地域が参加し、延べ2550万人超が来場した。日本国際博覧会協会（万博協会）によると、運営収支は230億～280億円の黒字となる見通しだ。

来場者がそれぞれの楽しみ方を見つけてSNSなどで発信し、共有した人が更新してまた発信する。そんな広がりを持つ一体感を生み出し、来場者が主役となった万博だった。開幕前の低調に終わるとの予想を覆して活況を呈したことは、成功といえるだろう。

世界とふれあう場所に

平成30年11月に誘致が決まった万博は、建設資材の高騰などで会場建設費が2度上振れた。海外パビリオンの準備が大綱に遅れ、開幕前は期待よりも赤字や安全面への懸念など、ネガティブなイメージの方が大きかった。

だが、そんな風向きは来場者が実体験を「素晴らしい」「よかった」と発信し始めたことで変わった。

効率的な回り方や飲食スポットをまとめた無償の地図などが拡散ど、優れた展示だった。プロデ

万博の閉幕

未来社会に一体感生かせ

来場者の発信が成功に導いた

万博の開催が上がるにつれ、当初は不評だった公式キャラクター「ミヤクミヤク」も大人気となった。グッズが飛ぶように売れ、会場内の周囲は人の影の撮影スポットになった。序盤は一般来場者が10万人を下回った。

ユーサーを務めたメディアアーティストの落合陽一さんは、長い行列を物ともせず楽しむ「万博民」と会場スタッフが「一致団結した」と会場の空気を評した。

ロシアの侵略を受けるウクライナは、地下シェルターの動画などを、長期化する戦時下の生活を展示ブースで発信し、過酷な現実を伝えた。万博を監督す

ったが、離着陸場の整備が進み、令和9年ごろから商用運航が始まる見通しだ。脈打つIP S心臓や水素燃料電池で動く自動運転トラクターなど、披露された先端技術は、世界が抱える社会課題の解決への道筋を示したといえるだろう。

若手男女が文化や食などをま

る博覧会国際事務局（BIE）への加盟を認められていない台湾はパビリオンを出せず、日本で登記された民間会社名義で出展した。日本の外務省が3月、民間出展であることを明示するよう申し入れたのは、日台友好に水を差しかねない残念な出来事だった。

「負の遺産」残さぬよう

東京など関西以外の地域への波及は限定的だった。安全性を確保するための「原則予約」システムは複雑で来場者を苦戦させたうえ、終盤の駆け込み需要には対応できなかった。

9月末から始まった未使用チケットの当日券引き換えには早朝から長蛇の列ができ、関西圏以外からの来場者は一層困難に陥った。「並ばない万博」を目指したはずが大行列が常態化したという結果を、運営側は検証する必要がある。

□社説を読んだ感想

○万博に関する「社説」を書いてみよう！

見出し				
記事	エピソード	出来事	出来事の主要部分	
			歴史的背景	
		出来事の結果と反応	出来事の影響	
			識者などの反応	
	解説	今後の予想		
		評価		

実践上の留意点

1. 授業説明

本授業の趣旨は、高等学校「歴史総合」において、学習指導要領に示された「目標」「内容の取扱い」をできる限り具現化し、学習指導過程のモデルを示すことである。

現行の学習指導要領において、「歴史総合」の目標には以下の記述がみられる。実践者は特に下線の部分を意識しながら本授業モデルの作成に取り組んだ。

(1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

※下線は実践者がつけたもの

2022年度から高等学校で必修化された新科目「歴史総合」は、現行の学習指導要領において、「現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する」こと、「歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する」こと、「近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う」ことが目標として示されている。

実践者は、世界と日本を相互的な視野から捉えるために、各国が国を超えて、共同・提携し取り組んできた「万国博覧会」を題材とした。2025年に大阪・関西万博が開催され、生徒が興味・関心を持って学習に取り組めることもねらいとした。

導入では、前時の復習として ICT を活用しながら、万博の歴史的背景やその意義等について確認した。展開①では、20世紀を中心に開催された万博のテーマ(その時代において新規性のある科学技術の発展や、国際的に共有された課題などとの関わりが深く、その時期における国際的関心の所在を反映している)に着目し、当時の社会との関わりについて、協働的にまとめた。展開②では、2025年に開催された大阪・関西万博に関する新聞記事(社説)を資料として、現代社会の諸課題について考察した。指導上の留意点として、社説をただ読ませるのではなく、その構造・構成についても説明した。終結では、30年後の万博テーマを考えることで、現代的な諸課題の展望について構想した。また、ICT(新聞制作アプリ「ことまど」)を活用して生徒同士の意見を共有させることで、生徒が自発的に現代的諸課題への認識を深めることを期待した。

2. 研究協議

・近代における万博に関する説明がメインとなり、生徒の思考する時間が短かったのでは？

→想定よりも説明する内容が多くなってしまった。より学習内容を精査し、生徒が思考・判断する時間をとるべきであった。

・万博をテーマにすることで、考察する現代的な諸課題が制限されるのでは？

→特に2000年代の万博に関しては、SDGsの推進がメインとなり、そこから当時の歴史的背景や社会問題を見いだすことは難しかった。

・教科書や資料集から、万博に関する考察を深めることは難しいのでは？

→特に歴史総合の教科書・資料集だけだと、情報量が限られてしまった。ICTや新聞データベースなどを上手く活用する必要がある。